「効果的な税金」という考え方

神奈川県立相模原中等教育学校２年　　青木　祐弥

あなたは日常で、どのような税金を払っているだろうか。ものを買えば消費税、お金を稼げば所得税。何をするのにも税金がかかる。昔から税金について様々な議論が繰り広げられているが、私は「効果的な税金」という考え方を取り入れるべきだと考える。

私はクラスで、独自の通貨「Ｅ」を使った経済圏を去年から運営している。経済圏には最初、税金がなかった。教室に高速道路をつくるわけにもいかないからだ。しかし、消費を促進するために給付金を導入すると、問題が起きた。資金不足だ。それを解決するため、「お金を刷ればいい」という甘い考えのもとたくさんお金を刷った。するとＥの価値は下がり、柄のついた紙くずとなってしまった。社会は税金なしでは成り立たないのだ。

学んだ私は、いわゆる「成長と分配の好循環」を生み出すべく、富裕層に税金をかけ、定額給付金を導入しようとした。

経済圏ではそのころ賭け事が大流行。たった一度のじゃんけんで大富豪になるか大貧民になるかが決まってしまう、恐ろしい社会だった。そこで「貯蓄税」というものを導入した。保有現金資産に課税するのだ。これで所得税ではしづらい消費の促進を実現し、最高の税金ができた、と思った。しかし、賭け事への依存が加速し、貯蓄がある程度必要な企業の活動が停滞、経済圏はギャンブル国家となってしまった。

ここで私に「効果的な税金」という言葉が舞い降りてきた。企業の活動を活発にするために、事業で稼いだ分の貯蓄税を免除することにしたのだ。すると、狙い通り企業の活動が活発になり、賭け事に頼らない経済を作ることができた。経済は税金によって操作できるのだ。

しかし、事業に税金をかけなかったため、事業で成功した者に富がどんどん集まっていった。焦った私は、富裕層への税金を千％にするなどしたが、効果は出ず。ついに「三万統一令」を出してしまった。格差是正の大義名分のもと、資産が三万Ｅ以上の者の資産を三万Ｅに統一した。財政はウハウハ、富豪はシクシク。傾きかけていた経済は崩壊し、クラス一の富豪だったＳさんは激怒した。私はそこで始めて自らの過ちに気付いた。行き過ぎた税金は、停滞と混乱を招くのだ。

私は反省し、税金を経済の状態に合わせて作ることにした。伸ばしたい分野を減税、過熱しすぎた分野を増税するようにしたのだ。

では、今の日本との共通点は何だろうか。それは格差の拡大、消費の縮小、財政難である。これらを解決しようとして、無闇に増税すると「三万統一令」のようなことが起こる。

つまり、最強の税金などないのだ。場面に応じて必要な税金を制定し、経済をよい方向に動かさなければならない。それが「効果的な税金」の考え方だ。今こそ「効果的な税金」で持続可能な経済をつくっていこう。